

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	障害福祉サービス（生活介護事業・就労継続支援B型事業）
事業所名	ドリーム・だんだん（生活介護事業） ドリーム・あんです（就労継続支援B型事業）
代表者氏名（管理者）	施設長 白井 直樹
法人名	社会福祉法人 虹の会
定員（利用人数）	ドリーム・だんだん（定員28名） ドリーム・あんです（定員20名）
施設・事業所所在地	滋賀県高島市今津町南新保593番地
T E L	0740-22-8100
F A X	0740-22-3077
電子メール	dandan@shiganijinokai.net（ドリーム・だんだん） andesu@shiganijinokai.net（ドリーム・あんです）
ホームページアドレス	http://www.shiganijinokai.net

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
評価実施期間	令和3年11月16日・17日

3 評価の概要

○ 総合評価

平成8年に設立された社会福祉法人虹の会は、知的障害者の日中活動を支援する拠点として発足したが、現在では障がい者だけでなく、生きづらさ・働きづらさを抱えている人の生活全般を支援する高島地域における社会福祉法人として、11箇所の事業所と7箇所のグループホームを擁し、地域になくてはならない社会資源として発展しています。今後さらに陣容を整え、地域におけるフロントランナー足らんとする自負を感じさせられます。

虹の会発足時の趣旨・経緯から生まれた理念「共に生きる」は、シンプルで分かりやすく誰もが共感を覚えます。「共に生きる」は言葉として表現されているだけでなく、法人全体に深く浸透し、職員は理念を体現しています。人には皆それぞれの個性があり、個性はそれぞれの色で表されます。「ドリーム・だんだん」・「ドリーム・あんです」の色はとても美しいハーモニーを奏でています。

「ドリーム・だんだん」・「ドリーム・あんです」は、眼前に雄大な琵琶湖の湖面が広がる静かな環境にあり、落ち着いた雰囲気の中で日常を過ごすことが出来ます。事業所の玄関を一步入ると、ロビーの壁面には支援企業から提供を受けたヘルメットで型取られた大きな虹のレリーフがあり、とても鮮やかな色彩が目を引きまします。七色のグラデーションは事業所のイメージを大きくアップさせています。「ドリーム・だんだん」・「ドリーム・あんです」の職員の皆様からは職務に対する意識の高さが感じられ、熱い思いが伝わってきました。

○ 特に評価の高い点

・法人理念を体現する中期経営計画の策定

法人理念に基づき綿密な中期3ヵ年計画が策定されており、さらにはSDGs（国連が定める持続可能な開発目標）に関連付けられるなど、現在の社会ニーズにも合致しています。情報量が多く透明性の高い情報開示は高い信頼感につながっています。職員は新人、中堅、ベテランと経験を重ねるに連れ、意識が向上していることが感じられました。職員一人ひとりの資質・努力もさることながら、人材育成計画が機能している事の表れと言えます。

・虐待防止への充実した取り組み

虐待事案を契機として法人全体で虐待防止に真正面から向き合っています。虐待防止委員会を設置し、様々な取り組みを行った結果、研修動画の作成やその動画を活用した事例検討、チェックリストのバージョンアップ等の成果として表れています。市の権利擁護部会とも連携を図り、その取り組みは他法人の模範ともなるものです。虐待防止への積極的な取り組み姿勢は他の事業の取り組みにも波及し、事業全体のサービス向上につながっています。但し、職務分掌には虐待防止に関する事の担当者を明記し、責任の所在を明らかにしておく事が必要です。

・働きやすい職場環境

会議は作業別の部屋ごとに行われ、その後全員で行う職員会議へと移行しています。少人数の会議では役職、経験に関わらず忌憚なく発言ができ、ボトムアップにつながり、その結果職員にとって働きやすい職場環境となっています。良好な職場環境は与えられるものではなく、自らの手で作り上げていこうという気概が感じられます。全役職員に配布される各種規定・マニュアルを綴った黄色ファイルは、職務を遂行する上で重要な役割を果たしています。

・開所日の設定

休日に事業所を開所する日を設け、様々な活動やイベントを行っています。季節の行事やレクリエーションを行う開所日は、利用者にとって欠かせない一日となっています。事業所としては人員配置に苦心しながらも、利用者、家族、地域の便益を図り、継続されています。その地道な活動は、地域への障害者理解に大きく貢献しています。ドリームだよりからは、利用者のとても楽しそうな様子があふれています。

・充実した個別支援計画の策定及び実施

個別支援計画は利用者一人ひとりの特性をしっかりと把握して立案され、実行されています。作業以外にも、余暇の過ごし方は手話やレクリエーションを行うなど工夫されており、利用者にとって「ドリーム」は心地よい居場所となっています。アンケートには、子供が毎日元気に通っていることを喜んでいる保護者の意見がありました。

○ 改善を求められる点

・第2期中期経営計画の一部前倒しによる実施

第1期中期経営計画の年度評価では感染症対策、防災・防犯対策の評価は3年連続B評価となっています。現在、我が国のコロナの状況は一進一退が続いており、自然災害はひとたび起これば甚大な被害をもたらします。また原発事故の脅威もあり、計画の実行は急を要します。人材確保・育成についてもB評価があり、第2期中期経営計画では、喫緊の課題に対する計画を前倒しで行うことが望まれます。

・正確な自己評価の実施

自己評価は事業所独自の方法で行わず、県が定める「自己評価実施ガイドライン」に基づき行うことが求められます。この方法では職員一人ひとりが事業所の活動を自分の事として捉え、サービスの質を確保し、向上させていく仕組みになっています。第1期中期経営計画を振り返っての課題である「中期経営計画」を全職員に浸透させるための取り組みにもつながり、事業所の目指すサービス水準の向上に有効な方法と言えます。

・利用者家族・地域住民・付近の事業所との関係性の強化

ドリームの家族会の活動は低調ですが、利用者家族との信頼を深めコミュニケーションを図るためには家族会の活動が不可欠です。アンケートからは、利用の根幹となる理念の理解が不十分な回答が見受けられます。活動を通じて理解を求めることが必要です。また防犯活動や美化運動のほか地域を活性化させるためには、地域の住民、事業所との連携が必要です。ドリームがイニシアティブを取り、先頭に立ってアクションを起こすことも大切です。

・営業努力の更なる積み上げ

SNSやメディアを活用するなど営業努力が為されていることは認められますが、残念ながら売上アップの成果に結びついていないと言いきることは難しいです。特に食堂、売店で働く人にとって来店客の動向はモチベーションを維持するバロメーターになります。高島市民病院付近には競合する飲食店は無く、コンビニも一軒しかありません。駅前の病院内という好立地であることを考えると、現行の来店客数では少ないと思われます。集客に向け更なる営業努力が望まれます。

・事故の低減

令和2年度事業報告書によると、「ドリーム・たんだん」では13件の事故が発生し、そのうち10件がレベル3となっています。事故を減らそうという意識は大切で、特別な要因が有る事を理由にしてしまうのは少し軽率です。今一度ハインリッヒの法則に当てはめ、事故の低減に取り組まれることを望みます。事故の低減に取り組む姿勢は、何事に対しても緊張感を持つことにもつながります。事業所独自の要因には個別の対応を強化して臨む必要があります。

※利用者アンケートに関する補足

今回の利用者アンケートの結果に対する評価機関としてのコメント

アンケート集計結果をまとめた「アンケート分布レーダー（円グラフ）」において、特徴的な数値の凹凸が顕著に現れています。この現象については、現在の新型コロナウイルス感染防止のため、長期の施設内での面会禁止やイベント中止期間があり、ご家族も日中の利用者の様子すら確認出来ない期間が続きました。この結果として、通所中のご本人の状態や施設の様子が分からない事となり、ご家族もアンケートに「いいえ」や「無回答」と答えざるを得ない状況になったと推測できます。従って、今回の「ドリーム・だんだん」、「ドリーム・あんです」利用者アンケートの特徴的な円グラフは、実際のドリームの適切な評価を現したものでないと考えられます。

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回、当法人（当事業所）で初めて滋賀県健康福祉サービス第三者評価事業を受診することになりました。受診にあたり、評価機関である滋賀県社会福祉士会の皆様には、長期間にわたり当事業所の取り組みや活動についてしっかりと評価していただきました。また、利用者・ご家族の皆様にもアンケート等でご協力いただき、ありがとうございました。

今回の評価結果を受け、良い点は継続しつつ、改善点においては真摯に受け止め、当法人の第2期中期経営計画の経営ビジョン「選ばれる法人・選ばれる事業所」に向け、取り組んでいきたいと思えます。特に「虐待防止」「事故の低減」に重きをおき、利用者・ご家族の皆様が安心して利用できる事業所・信頼していただける事業所となるよう、職員が一丸となって意識を高め合い、さらなるサービスの質の向上を目指したいと思えます。